

平成 22 年 12 月 9 日

1・2号機中央制御室のケーブル貫通部からの空気の流入について

<概要>

(事象の発生状況)

- 平成 22 年 12 月 8 日、1・2号機中央制御室（非管理区域）と1号機タービン建屋1階（管理区域）間にあるケーブル貫通部にシール不良箇所（2箇所）を当社社員が発見し、当該部より中央制御室へ空気が流れ込んでいたものと判断しました。

(推定原因および対応)

- ケーブル貫通部のシール部材の充填が不十分であったことから、中央制御室の非常用換気系のファンを起動させた際に、当該部より中央制御室へ空気が流れ込んだものと推定しました。
- 今後、シール部材の充填等を行い、ケーブル貫通部の気密性の復旧を図ってまいります。

(安全性、外部への影響)

- 調査の結果、当該部に、放射性物質は確認されませんでした。
- 本事象による外部への放射能の影響はありません。

(公表区分)

- 本事象は公表区分Ⅲ（信頼性向上のために公表する事象）としてお知らせするものです。

詳細は以下のとおりです。

1. 事象の発生状況

平成 22 年 12 月 8 日、運転中の 1・2号機において、1・2号機中央制御室の非常用換気系のファンを起動させ、中央制御室の空気流入量測定作業を行っていたところ、中央制御室と1号機タービン建屋1階（管理区域*）にあるケーブル貫通部にシール不良箇所（2箇所）を当社社員が発見しました。

その後、午前9時44分に、当該部より中央制御室（非管理区域）へ空気が流れ込んでいたものと判断しました。

なお、当該ファンを待機状態にして通常換気空調系のファンの運転に戻したことにより、ケーブル貫通部から中央制御室への空気の流入がないことを確認しました。

2. 推定原因および今後の対応

その後の調査でケーブル貫通部のシール部材の充填が不十分であったことを確認しており、このため中央制御室の非常用換気系のファンを起動させた際に、中央制御室の気圧が変化し、当該部より中央制御室へ空気が流れ込んだものと推定しました。

今後、シール部材の充填等を行い、気密性の復旧を図ってまいります。

3. 安全性、外部への影響

調査の結果、当該部に放射性物質は確認されず、中央制御室への放射性物質の流れ込みはなかったものと評価しております。

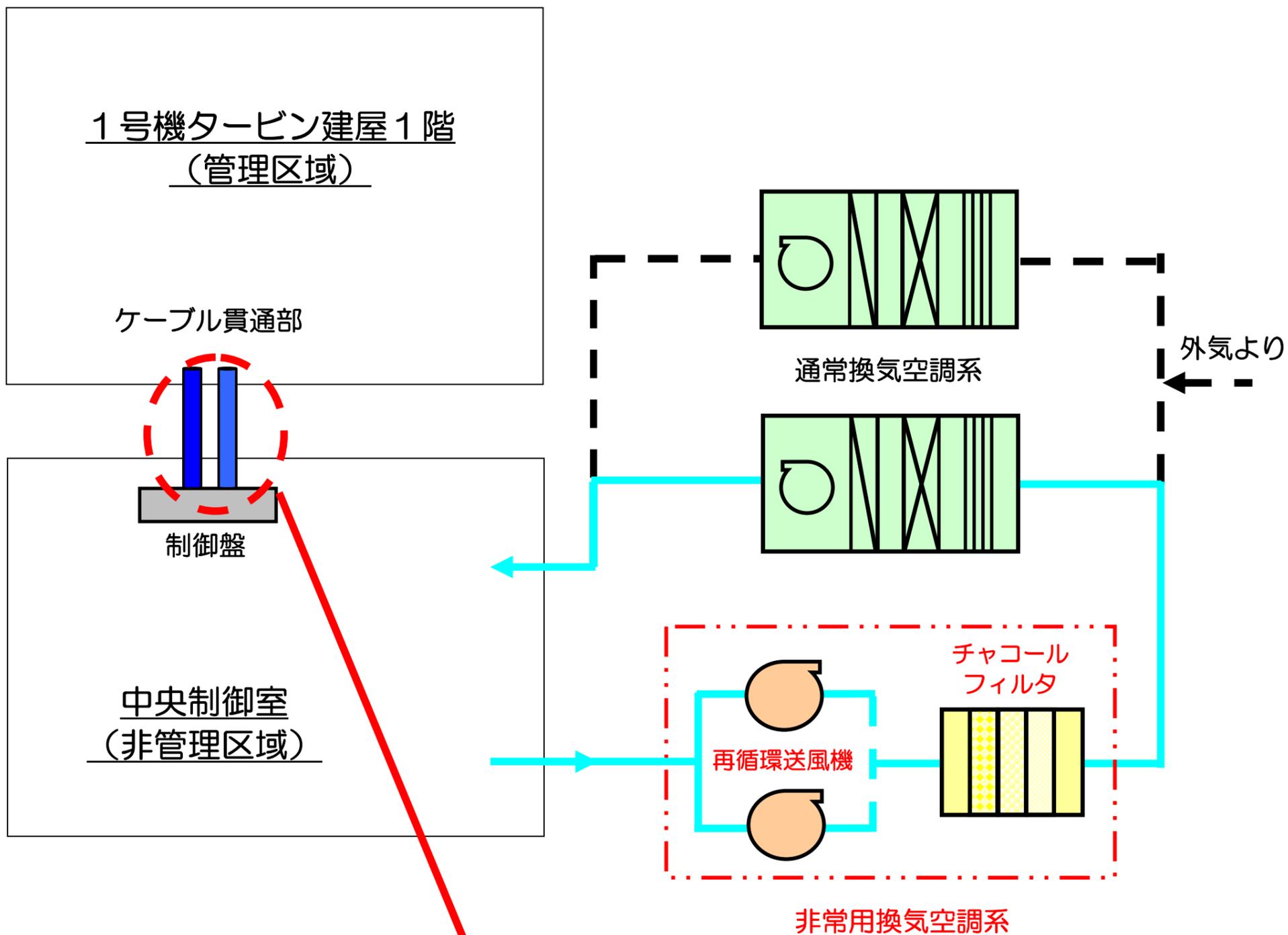
また、空間線量率を測定するために発電所敷地周辺に設置されているモニタリングポストの値は、通常の変動の範囲内であることから、外部への放射能の影響はなかったものと評価しております。

以 上

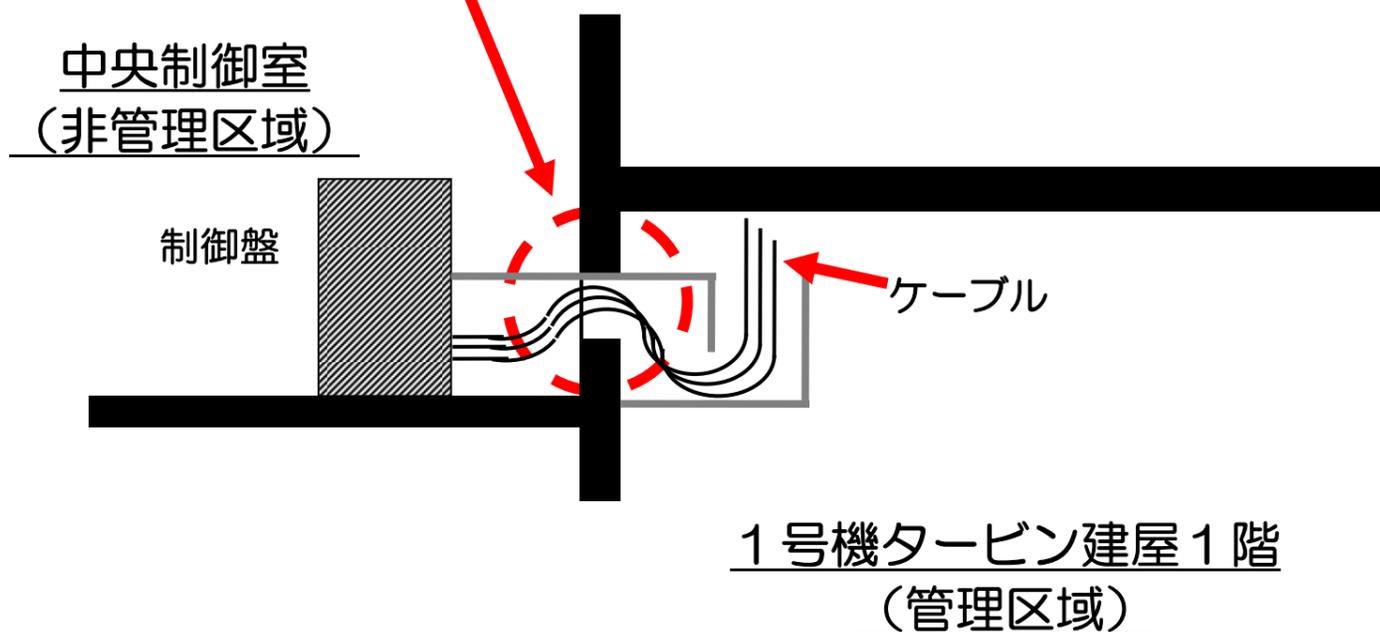
* 管理区域

放射線による無用な被ばくを防止するため、また、放射性物質による放射能汚染の拡大防止をはかるために管理を必要とする区域。

平面図



断面図



1・2号機中央制御室換気空調系およびケーブル貫通部概略図